

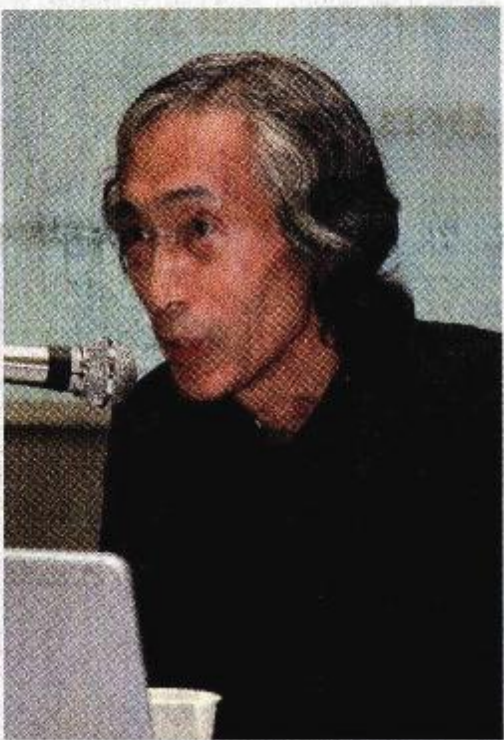


快適な間取りを 考える

心の豊かさを
空間から考える

居心地のいい住まいとは、機能的な側面と精神的な側面の二つの要素がそろって初めて実現するものです。どんなに優れた機能を持つ家でも、気持ち満足できなければ、快適な毎日を送ることは難しいのではないのでしょうか。たとえば、年月とともに愛情が深まる素材を選んだり、五感をはぐくむ仕掛けをつくるなど、情緒や潤いを大切にする事。それが精神的な側面が満たされる住まいをつくるヒントになるかもしれません。

家族の關係に大切な役割を果たすのが「間取り」です。一例として、家族が集まる居間や食堂には、吹き抜け空間をつくることを提案しています。上下の空間をつなぐため、上の階にある子供部屋との「コミュ



富田真二氏 一級建築士

那賀郡那賀町生まれ。日本建築家協会四国支部事務局長。住宅設計の仕事を中心に取り組んでいる。

家づくりにおいて、いろいろと頭を悩ませるのが間取りの問題です。限られた条件のもと、家族それぞれが快適に暮らすためには、何よりも気持ち満足することが大切ではないでしょうか。一級建築士の富田真二さんにご講演いただきました。

ニケーションもとりやすく、幼児期はもちろん、発育期や反抗期にも大いに力を発揮してくれるでしょう。また、階段を居間につくるのも、親と子供が顔を合わせる機会が増えることから、効果的な間取りだと考えられます。

昔の日本家屋には、縁側や通り庭、土間といった内と外をつなぐ空間がありました。心の豊かさが求められる時代だからこそ、間取りをはじめとする空間を上手に使うことで暮らしに満足感が得られるはずですよ。動線など、使い勝手の良さを第一に考えた目先の利便性

だけではなく、本当に居心地のいい住まいに必要なものを考えてみてください。

